

# 二〇二六年度 入学試験問題

## 国語

### 第一回

#### 【注意】

- ・試験時間は五〇分です。（八時四五分～九時三五分）
- ・問題は一ページから八ページまでです。
- ・解答はすべて解答用紙に記入してください。
- ・字数制限のない問題について、一行分の解答らんに二行以上解答してはいけません。
- ・記号・句読点がある場合は字数に含みます。
- ・解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗足学園中学校

1 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

30

25

20

15

10

5

60

55

50

45

40

35

**問一**

——(1)「ガラス張りの状態」とありますが、これはどのような生き方ですか。三行以内で説明しなさい。

**問二**

——(2)「まだ特別な内面性を形成し<sup>と</sup>遂げる以前の状態」とありますが、これを成し遂げた後とはどのような状態ですか。三行以内で説明しなさい。

**問三**

——(3)「自分自身を見捨てる」とありますが、これはどのようなことですか。三行以内で説明しなさい。

**問四**

——(4)「『正直』であるため」に筆者は何が必要であると述べていますか。四行以内で説明しなさい。

問五

——(5)「私たちには『自分自身に対してとらわれず自由な態度』をもつ可能性も残されている」とありますが、それはどういうことですか。その説明として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 嘘をついた相手と互いに信じあうことができれば、いかなる場合でも自分のおかした失敗を許してもらえはらずであると期待できるということ。

イ 嘘をついた相手に対して人間関係をあきらめたり、冷たい仕打ちをされたりすることを心配せず、自分の信念を通せば関係の修復が見込めるということ。

ウ 自分のしたことは正しいという思い込みを捨てることができれば、他人の批判を気にせずに自分に素直に過ごすことが可能になるということ。

エ 嘘をついた相手に対する思い込みや恐れにとらわれることなく、自分が自分らしくあることを信じて行動すれば自由を失うことはないということ。

問六

筆者の述べる「正直」の例にあてはまるものはどれですか。最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 料理が苦手なお母さんが栄養面を考えて一生懸命に作ってくれた料理に対して、子どもが「この料理はまずい」と言う。

イ 仕事で自分が失敗した際に同僚の手前その場のぎのぎのことを言ったが、上司に隠し事はしたくなかったので、報告する。

ウ スポーツの試合に勝ったとき、自分の努力が実った嬉しさを隠すことなく、負けた相手の目の前でチームメイトと大喜びする。

エ 悪かったテストの点数を保護者に伝えると心配をかけてしまうので報告せず、その代わりに次のテストに向けて一生懸命努力する。

問七

A 〃 D に入れる語としてふさわしいものを、次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし同じ記号は二度以上使えません。)

ア そして イ しかし ウ あるいは エ つまり

問八

——ア～オのカタカナを漢字に直しなさい。

問九

本文の内容に合うものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 絶対に嘘をつかないということは、状況をすべて把握しきれないような場合でも、自分が信じていることをゆるがせることなく本心から発言することである。

イ 状況や相手に左右されることなく自分の信じていることを必ず言うことは、他人から「あの人は正直な人だ」と尊敬されほめたたえられるようなことである。

ウ 自分自身がどんな時もだれにも嘘をつかないと心に決めていたとしても、社会のなかでは嘘をつくことは認められているので時と場合によっては嘘をついてもいい。

エ 嘘をついた相手との仲を思ってから本当の話をしようと考え直した場合、相手がどのような反応をするかわからなくても本当の話をするのが自分を大切にすることだ。

2 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

20 15 10 5

---

85

80

75

70

65

60

120

115

110

105

100

95

90



### 問三

——(3)「山がそこにあるんだけど、登り方がわからないというか、道が見つからないというか」とありますが、ヤマネが言おうとしていることはどのようなことですか。説明として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア この先どうすればいいのか見通しが立たず、何もできないまま時間 that たっているということ。

イ 自分を取り組むべきことは決まっているが、どう実現すればいいの方法がわからないということ。

ウ いつかやるべきことはわかっているのに、時間の感覚を失ってしまつて実現が難しいということ。

エ 目の前に立ちはだかる難題があつて、それを克服するための方法が見つからないということ。

### 問四

——(4)「講座に参加していたときに読んだ本に書かれていた、『お雇い外国人』の調査をしたグリフィスの手紙の一文が、頭の中に響いた。」とありますが、このときヤマネはどのようなことを思っていますか。三行以内で説明しなさい。

### 問五

——(5)「入り組んだ海岸線の見晴らしのいい場所から海を見下ろした写真が入っていた。」とありますが、「海」に係る次のⅠ～Ⅳの慣用句やことわざのⅠⅡⅢⅣに入る言葉を書きなさい。( )内はそれぞれの意味を表します。答えはひらがなでも構いません。

Ⅰ 井の中のⅠⅡⅢⅣ 大海を知らず

(世の中のことを知らず、考えのせまい人のたとえ)

Ⅱ 海のものともⅠⅡⅢⅣ のものともつかない

(ものごとの正体がかみかず、結果がどうなるか見当がつかない)

Ⅲ えびでⅠⅡⅢⅣ をつる (小さな元手で大きな利益を得る)

Ⅳ 魚心あればⅠⅡⅢⅣ

(相手が好意を示せば、こちらも好意をもって応える気になる)

### 問一

——(1)「五人の話した声は、秋のほどよい温度の空気に拡散していった。」とありますが、「話した声」が「空気に拡散していった」とはどういうことですか。二行以内で説明しなさい。

### 問二

——(2)「七坂がロケ地探しで訪れた家のことを話していた。」とありますが、このロケ地探しを通して七坂はどのようなことを最も強く感じましたか。四行以内で説明しなさい。



問六

——(6)「窓の外に広がる明るい水色の空は、ほんの少しずつ色を変えていった。」とありますが、この風景はどのようなことを意味していますか。説明として最もふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 晴れた昼の空の様子であることから、ヤマネだけでなく七坂や受講生たちがそれぞれ抱<sup>かか</sup>えている悩<sup>なや</sup>みがこれから解消されていくということ。

イ 空の色が時間が経<sup>た</sup>って少しずつ変化していることから、ヤマネと七坂や受講生たちとの関係性がこれからも少しずつ変わっていくということ。

ウ 水色の空が何色に変化するのか語られていないことから、ヤマネがこの先どのように小説と向き合うのかはまだ不明であるということ。

エ 昼の空の色から夕暮れの空の色に変化していることから、ヤマネの小説を書き続けていられる時間の限界が刻々と迫<sup>せま</sup>っているという。

問七

A 〃 D に入れる語として最もふさわしいものを、次のア～タの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし同じ記号は二度以上使えません。)

ア	のろのろ	イ	のんびり	ウ	ずらり	エ	ちかちか
オ	いらいら	カ	がんがん	キ	ばらばら	ク	ちゃっかり
ケ	げらげら	コ	うっとり	サ	つるり	シ	いきいき
ス	かたかた	セ	ぺこぺこ	ソ	がらん	タ	どんどん

問八

本文の内容に合うものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ヤマネは七坂が行った家の話からかつて見た写真に写る人物のことを、また夕暮れが近づいていることからかつて見た手紙の言葉のことを思い出しており、見聞きしたことから連想を広げながら歩いている。

イ 玉川上水沿いを七坂と話しながら歩くなかで、ヤマネは自分が以前書いた五分間だけ散歩する小説の内容や、その小説を書いていた時に考えていたことが読者の記憶にはつきりと残ると確信している。

ウ 玉川上水沿いを歩きながら、ヤマネと七坂と丘ノ上と湯元と辻の五人はお互<sup>たが</sup>いに話しているが、彼ら<sup>かれ</sup>の話はきちんと筋道だったものではなく、それぞれが思いついたことを思いのままに話している。

エ 入江が企画した映画のイベントのために七坂が滞在している島の外の景色を映してほしいとヤマネが頼むのは、それぞれがいる場所についての記録を残したいと思ったからである。





